

# KAYABA RALLY TEAM



## JAF全日本ラリー選手権 参戦レポート #3

2024年 JAF全日本ラリー選手権 第3戦

# 久万高原ラリー

2024/4/26(金)~4/28(日)  
愛媛県上浮穴郡久万高原町



## 視界不良のサバイバルラリー!

## クラス6位/総合6位!

# KAYABA RALLY TEAM



## 大会概要

日程: 2024/4/26(金)~4/28(日)  
 場所: 愛媛県上浮穴郡久万高原町  
 主催: 松山オートクラブ  
 チーム・エトワール  
 ドライバーズ・クラブ・ルーキー  
 SS数: 8  
 路面: ターマック  
 総走行距離: 300.91 km  
 SS距離: 105.10 km



## スペシャルステージ設定

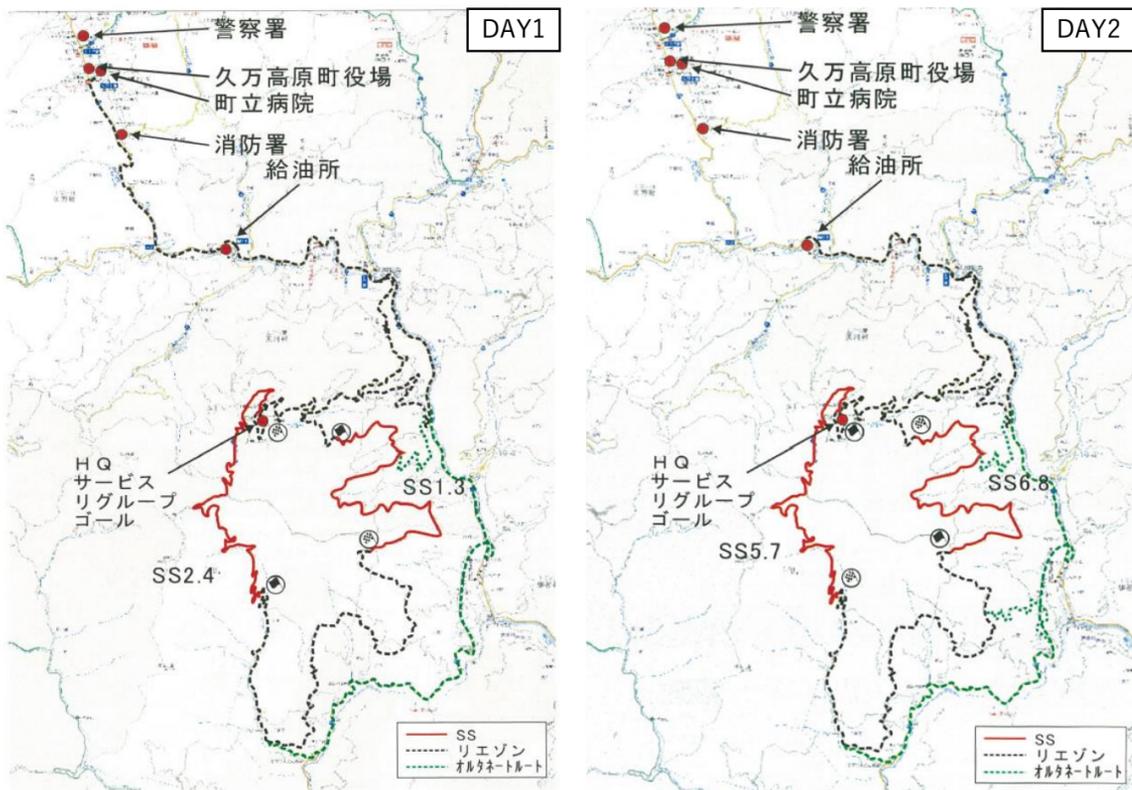
【DAY1】 4/27(土)  
 天候: 雨時々曇り / 路面: ウェット

スタート		9:00
SS1 大谷 I	12.22 km	9:50
SS2 大川嶺 I	13.93 km	10:50
<サービスA (30分)>		
SS3 大谷 II	12.22 km	13:25
SS4 大川嶺 II	13.93 km	14:25
<サービスB (45分)>		
パルクフェルメ		

【DAY2】 4/28(日)  
 天候: 晴れ時々曇り / 路面: ウェット・ドライ

<サービスC (15分)>			7:30
SS5 大川嶺リバース I	13.73 km		9:15
SS6 大谷リバース I	12.67 km		10:20
<サービスD (30分)>			11:55
SS7 大川嶺リバース II	13.73 km		12:45
SS8 大谷リバース II	12.67 km		13:50
フィニッシュ			14:30

## 全体図



## チーム体制



- チーム : KAYABA Rally Team
- 監督 : 榎本 一憲
- チームアドバイザー : 奴田原文雄
- ドライバー : 石黒 一暢
- コ・ドライバー : 穴井 謙志郎
- チーフエンジニア : 松下 雄介
- チーフメカニック : 山田 淳一(RUTS RACING)
- エンジニア : 柴田 究悟
- メカニック : 長江 将典、増谷 大志、松田 幸也、三國 大河
- マネージャー : 伊藤 由佳

## リザルト (JN-1クラス 6位/11台 総合 6位/47台)

クラス	No.	Dr.	Co-Dr.	参加車両名	車両型式	車両区分	DAY 1					クラス順位	DAY 2					クラス順位	総合順位	クラス順位	総合順位		
							SS1	SS2	SS3	SS4	Penalty		合計	SS5	SS6	SS7	SS8					Penalty	合計
JN-1	1	勝田 範彦	木村 裕介	GR YARIS Rally2	MXPA12	Rally2	9:24.7	11:35.4	9:29.0	11:46.8		42:15.9	1	11:42.0	9:53.1	11:29.1	10:07.9		43:12.1	1	1:25:28.0	1	1
JN-1	9	田口 勝彦	北川 紗衣	AICELLO速心DLヤリスRally2	MXPA12	Rally2	9:53.8	11:58.5	9:46.4	12:01.8		43:40.5	2	11:32.8	10:14.3	11:29.4	10:28.7		43:45.2	2	1:27:25.7	2	2
JN-1	2	福永 修	齊田 美早子	OSAMU焼肉ふじ☆CTE555ファビア	ABCUFX11/R5	Rally2	9:48.7	12:09.8	9:40.9	12:05.6		43:45.0	3	11:53.2	10:22.6	11:36.6	10:29.4		44:21.8	5	1:28:06.8	3	3
JN-1	4	新井 敏弘	井上 草汰	SUBARU WRX S4	VBHB4Y8-KAC	JP4	9:44.7	12:04.0	9:46.8	12:14.6		43:50.1	4	11:58.2	10:13.8	11:42.5	10:22.8		44:17.3	4	1:28:07.4	4	4
JN-1	7	眞貝 知志	安藤 裕一	GR YARIS GR4RallyDAT	GXPA16	JP4	10:01.1	12:20.1	9:57.8	12:17.3		44:36.3	5	12:14.5	10:28.6	11:58.4	10:30.7		45:12.2	6	1:29:48.5	5	5
JN-1	10	石黒 一暢	穴井 謙志郎	カヤバ GRヤリス	GXPA16	JP4	10:15.7	12:28.2	10:20.3	12:32.8		45:37.0	7	12:17.5	10:46.2	12:07.1	10:53.0		46:03.8	7	1:31:40.8	6	6
JN-2	12	三枝 聖弥	船木 一祥	名古屋スバル ラック DL WRX	VAB	RRN	10:25.3	12:28.0	10:08.7	12:40.8		45:42.8	1	12:34.4	10:46.8	12:16.6	10:49.8		46:27.6	1	1:32:10.4	1	7
JN-4	30	内藤 学武	大高 徹也	YHアーリット スイフト	ABCUFX11	RJ	10:29.1	12:35.3	10:26.0	12:50.6		46:21.0	1	12:26.6	10:52.8	12:19.4	11:08.7		46:47.5	1	1:33:08.5	1	8
JN-4	32	高橋 悟志	箕作 裕子	ミツバWMDLマジカル冷機スイフト	VAB	RJ	10:25.5	12:43.5	10:26.0	12:59.2		46:34.2	2	12:34.5	11:00.6	12:19.8	10:58.2		46:53.1	2	1:33:27.3	2	9
JN-2	13	小泉 敏志	村山 朋香	若魁DLドリームドライブGRヤリス	GXPA16	RJ	10:29.2	12:55.7	10:20.9	12:59.2		46:45.0	3	12:31.5	11:03.4	12:15.4	10:54.0		46:44.3	2	1:33:29.3	2	10
JN-4	17	西川 真太郎	本橋 貴司	スマッシュDLモンスター-itzzスイフト	GXPA16	RJ	10:25.6	12:43.6	10:26.0	13:06.6		46:41.8	3	12:42.9	10:53.9	12:22.5	10:56.3		46:55.6	3	1:33:37.4	3	11
JN-3	26	山口 清司	丸山 晃助	エナペタルADVAN久興GR86	ZC33S	RJ	10:18.5	12:55.6	10:26.0	13:04.1		46:44.2	1	12:45.0	11:11.5	12:12.7	11:09.9		47:19.1	3	1:34:03.3	1	12
JN-3	25	曾根 崇仁	竹原 静香	PMU☆DL☆INGING☆GR86	ZN8	RJ	10:37.3	12:55.4	10:26.0	13:19.9		47:18.6	2	12:42.2	10:54.0	12:20.5	10:58.3		46:55.0	2	1:34:13.6	2	13
JN-3	27	長崎 雅志	大矢 啓太	NTP NAVUL GR86	ZC33S	RJ	10:23.8	12:55.8	10:26.0	13:35.4		47:21.0	3	12:46.6	11:00.5	12:17.3	10:48.3		46:52.7	1	1:34:13.7	3	14
JN-2	15	泉 陽介	石田 一輝	DlitzzクスコセノータWRランサー	GXPA16	RJ	10:36.9	12:54.0	10:26.0	13:12.0		47:08.9	4	12:54.5	10:58.5	12:36.4	10:53.5		47:22.9	4	1:34:31.8	3	15

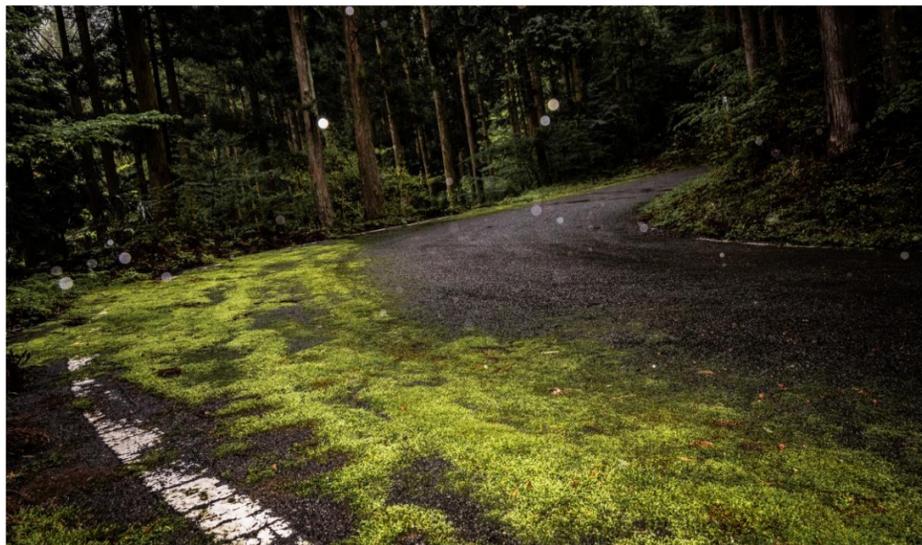
## ダイジェスト

4/26(金)~28(日)に愛媛県上浮穴郡久万高原町にて、全日本ラリー選手権 第3戦『久万高原ラリー』が開催された。計47台のマシンが参加し、カヤバラリーチームが参戦するJN-1クラスには11台が集まった。計8本のSSと少ないが、いずれも10km超のロングステージで、SS総距離は100kmを超える。

DAY1では事前の予報に反して朝から雨が降り、今シーズン初のウェットコンディションになった。濡れた路面の感触を確かめつつ慎重にSS1・SS2をこなすも、霧による視界不良により先の見えない緊張の走行となった。サービスを挟んで迎えた午後のSS3・SS4では雨は止むも、霧はさらに濃くなり、視界がほとんど見えない状況の中、ペースノートを頼りに走り抜けクラス7位/総合7位で折り返した。

DAY2は晴れとなるも、所々にぬかるんだ泥や湿った苔が残る難しいコンディションの中、SS5にてブレーキロックにより土手に接触、左前ロアアームが曲がってしまう。不具合を抱えながらもSS6を走り抜け、サービスでのメカニックの奮闘により規定時間の30分で車両は復帰した。残るSS7・SS8は無理なく順位を守るペースで走り切った。リタイヤが多数発生したJN-1クラスだが、チーム一丸となりクラス6位/総合6位にてラリーを終えた。

第4戦は5/10~12に京都府京丹後市にて開催される。



## DAY1

SS1の”大谷”は、狭く曲がりくねった狭い林道ステージで深い森の中を走る。風通しが悪いため一度雨が降ると乾きづらく、荒れた路面に苔や泥などが点在するステージである。雨の中挑んだSS1は、霧で視界が悪い区間もあったが慎重に走り切りクラス8位/総合10位のタイムを記録。

SS2の”大川嶺”は5年ぶりに復活したステージで、四国カルストを目指して標高1500m付近まで駆け上がり、ギャラリーポイントがあるハイランドパークみかわまで下る。災害復旧のため長期間封鎖されていたことで、所々に苔や泥の堆積が見られ非常に滑りやすい。最高地点では絶景が見られるはずも霧で覆われ、先の見えない不安からペースノートを信じられずアクセルを踏み切れない瞬間もあったが、無傷で走り切りクラス8位/総合8位のタイムで終わることが出来た。

サービスを挟んで迎えたSS3・SS4はSS1・SS2と同じ道を再度走る。雨は止んだが霧はさらに濃くなった上、コーナー内側を走行するインカット走法により路面には泥が掻き出され、コースの難易度はさらに上昇。1ループ目に対しタイムダウンするも、SS4ではクラス6位/総合6位のタイムを記録した。

マシントラブルなど含め、全体では6台が戦線離脱、うちJN-1では3台が離脱するなど波乱となったDAY1は、クラス7位/総合7位で一日を終えた。



# KAYABA RALLY TEAM



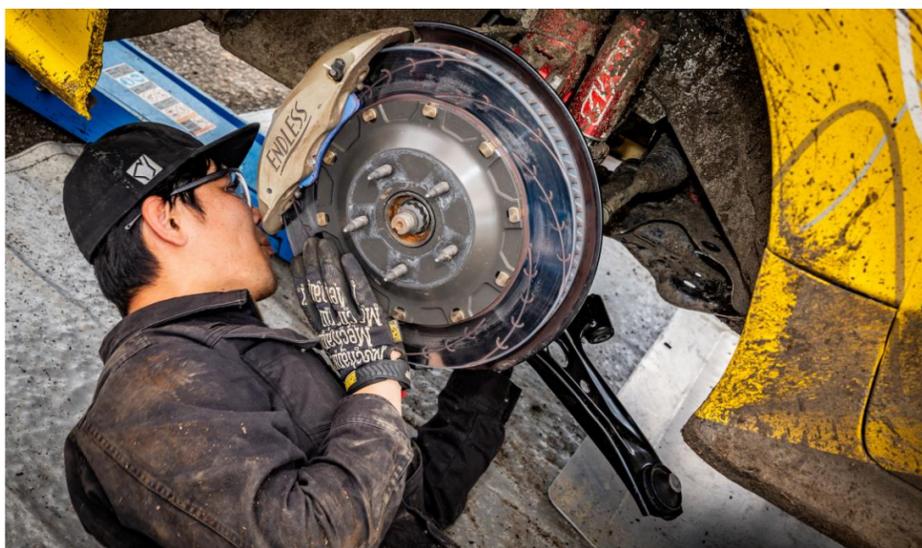
## DAY2

DAY2は4本のSSが用意され、DAY1で使用したステージを逆走で使用。天気は晴れ、朝は濡れていた路面も気温の上昇に伴い徐々に乾いていく様子と、DAY1の走行による路面変化を考慮し、朝一のサービスにてタイヤやショックアブソーバなどの車両セッティングを変更した。

SS5は”大川嶺”の逆走。前半はほぼドライだが後半は濡れており、路面変化への対応が必要となった。変化する路面に挙動が乱れる箇所もある中、コース後半にて滑りやすい路面に乗りブレーキをロックさせてしまい、コーナー外側の土手に接触、左フロントの足回りにダメージを負ってしまった。ペースを落として走り切り、クラス7位/総合7位のタイムで乗り切った。ダメージは幸いにも走行可能な程度に留まり、ラリーの続行を判断。”大谷”の逆走を走るSS6では破損した足回りを労うように走行し、サービスへ向かった。

サービスではメカニックの懸命な作業により、修復箇所の確認、補修部品の選定、部品交換に加え、通常の点検項目も実施。競技走行可能なレベルまで修復し、規定時間の30分間で全ての作業を終え、車両を送り出した。

SS7・SS8はSS5・SS6と同じ道を再度走行。DAY2を終え、最終結果としてクラス6位/総合6位で完走を果たした。



# KAYABA RALLY TEAM



## DRIVER

石黒 一暢

雨、泥、苔、霧とラリーの要素をたくさん詰め込んだ非常に難しいラリーとなりました。霧が出ている箇所では一瞬ペースノートが信じられなくなってしまい、何度も聞き直すような場面が発生してしまいました。ペースノートはドライバーが自分のルールを当てはめて作成するため、違和感や不安を感じる場合はノートに何らかの問題があることとなります。今回の経験で、これまでのラリーも完全なペースノート走行が出来ていないことが浮き彫りになった為、視界が無い時にもノートを信じて全開で走れるよう、改善に努めてまいります。

また、SS5のクラッシュはドライバーとして反省点が多い出来事でしたが、諦めずに走り切ることで完走に繋がったことは良かったと思えました。メカニックやエンジニアは短時間にも関わらず、破損個所の検討、部品交換、アライメントの調整を迅速に行ってサービスを規定時間で完了し、ペナルティ無しで我々を送り出していただけました。チームの頑張りに応えられるよう、引き続きドライビングの改善を進めていきます。



## Co-DRIVER

穴井 謙志郎

いつか経験するかもしれないと思っていた視界ゼロの霧のラリーを早速経験でき、貴重な機会になりました。特にSS4は10m先も見えないような区間もあり、ペースノート無しでは完走も難しいような状況でした。前が見えない状況においては、コ・ドラのリーディングがより重要になってきます。確実に濃霧区間をクリアできるように、リーディングのタイミングを変更し、少し先ではなく目の前のコーナー情報を確実に伝えるスタイルに啾嗟に変更できたことは、完走第一という目標においては良い仕事ができたと感じています。

DAY1とDAY2では同じ林道を順走・逆走で使用しますが、DAY1で競技車により掻き出された路肩の泥によりDAY2はレッキ時から大きく路面状況が変わり、ペースノートに記録できていない危険箇所が多くありました。DAY1の夜に車載動画を確認しながらノート情報をアップデートし、滑りやすい箇所を追記していましたが、それでもSS5で土手に接触するトラブルを避けられませんでした。何が足りなかったのか検証を重ねつつ、ノートで危機回避できる技術を高められるよう、今後の課題として取り組んでいきます。



## Special Thanks



※写真は他にもございます。必要でしたらお申し付けください。



@kyb\_official  
カヤバ株式会社  
公式YouTube



@kybcorporation  
カヤバ株式会社  
公式Instagram



@KAYABA\_KYB  
カヤバ株式会社  
公式X(旧Twitter)

私たちは創業から息づく「ものづくり」の原点に立ち返り、未来に向かって歩み続けます。

Kites rise highest against the wind - not with it. Winston Churchill



Our Precision, Your Advantage